

第二號

編輯兼 發行人 柳木縣鹿沼町上横町 波 邊 順 道

印刷人 井 上 平 作

發行所 柳木縣上都賀郡菊澤村役場内 菊澤村經濟更生委員會 電話鹿沼三三六番

且に計書 なければ 夕べに悔 あり

新年を迎へて

村長 大出 新作

世は昭和十二年の新年を迎ふ、皇室の彌榮は申すも畏し。國運隆々旭日昇天の勢を以て進展しつゝ、ある躍進日本、茲に輝ける希望に充ち満てる吉辰を迎へ誠に慶賀の至りに耐へません、謹んで村民各位と共に皇運の無窮と國運の萬代を讃へて新年を壽ぎ奉り國家國民の將來を祝福するものであります。

今や地上は國際の關係、國內の情勢等益々多事多端、殊に國際關係に至りましては將に一觸即發の危機を孕んで一刻の餘安を許さざるものがあり、内は疲弊困憊の窮極に呻吟して意氣頓に消衰せる農村更生の如き、又一日も忽緒に付すべからざるものがあります。

即ち行詰まれる農村、窮迫せる農家經濟を更生の明るい大道に引き戻す爲には有ゆる政策が行はれ、農林省の農業政策の根幹を中心に、地方廳各種團體が夫々農村に働きかける施設、助成は實に多種多様であります。

一、二六事件の衝動に因り、我議會史上其の前例を見ない戒嚴令下に開かれたる廣田内閣第六十九回特別議會の如きは、宛然救農議會なりと批評せられたる、程農村問題が主として論議考究せられた事は各々の御承知の通りであります。就中、負債整理關係法、米穀自治管理法、等誠に吾農村に惠まれたる政策であり、殊に吾農山村の負擔軽減を目標として立案せられたる今度の税制改革の如きは、恰も無援孤立、多年過大の重壓に押潰されて居た吾農村に大舉援軍の馳來した様な、實に起死回生の一大福音でありました。私共農民は此の惠まれたる有り難い政策を心から歓迎し、相呼應致して、一日一刻も速に今日の苦境より脱出することに緊陣一番の努力を致すことの覺悟を新にせなければなりません。

本村去る昭和八年縣下第二次經濟更生村として指定以來、幸ひ各位の携む事なき一致協力の奮闘に因り、相當の實績を収め爲めに昨年七月農林省指定特別助成村としての指令に接したことは、先就て通じて各位に懇へた通りであります。

いよ／＼迎へました本年度こそ之が第三期實行運動に入らねばならぬ、極めて重大性を帯べる昭和十二年であります。宜しく自主獨性の精神と不屈不撓なる努力とを以て此の邁大にして然も至難なる更生大運動の目的達成に邁進せられん事を望んで止みません。

加ふるに東西兩小學校新築と言ふ一大事業を控へて居ります。総工費四万七千餘圓の内四万圓を大藏省預金部に借入申請中でありますが、未だに其の指令に接しなへ爲め、手を拱へて在昔本年に持越した様な次第であります。總て新築許可、起債認可稟請、其他等手續は悉く完了、正に待機の姿勢であります。指令次第起工準備は限なく整つて居ります。

以上略述しました様な各種の事業のため、十一年度に於ける本村の豫算は當初豫算に第六次の追加更正を致し、現在實に八万六千餘圓と言ふ、本村々政史上空前の大豫算を現出するの止むなき状態に達着致しました。

然し斯の如きも元より時代の趨勢、本村の實狀に則せる本地更生の爲めであり

まするので又止むを得なへ膨張であり、且つ健全なる財政計畫を樹立致しまして一時に各位に過重の御負擔を願ふことを勉めて避けて居りますので、此の点特に御諒解御共鳴を願つて止まないであります。

以上の如く尅大なる豫算を消化して各種の事業を完成し吾愛郷菊澤をして、眞に健全なる理想の樂土郷たらしめねばならぬ、村史上實に一新紀元を劃すべき昭和十二年であります。

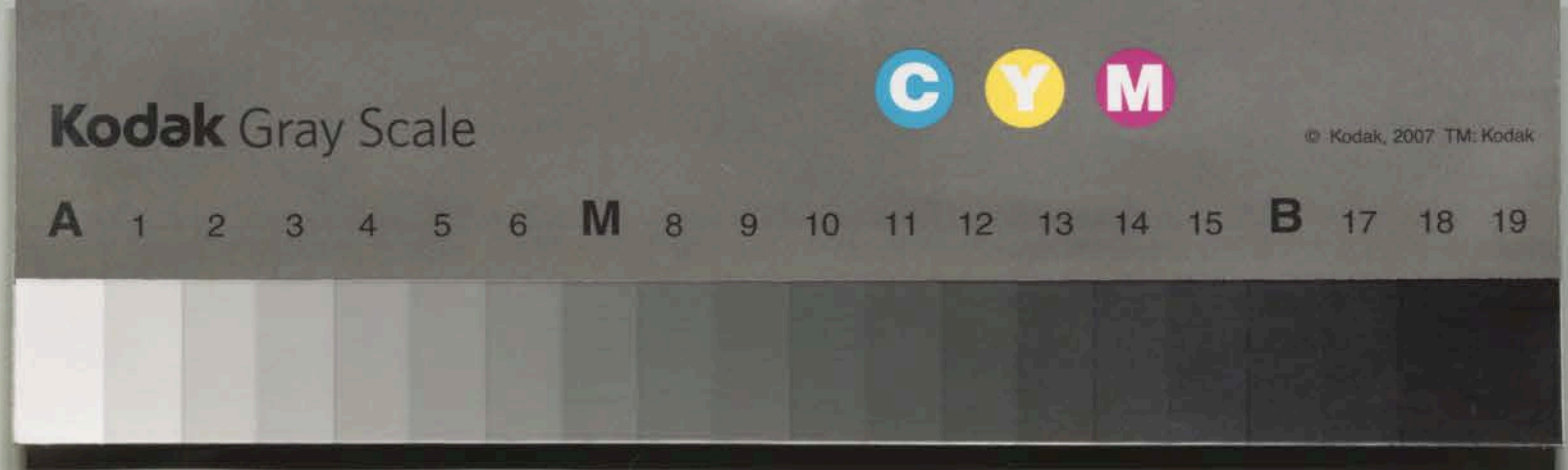
希くば村民各位宜しく意を茲に致され一圓融合、物心一元の報徳道、富村興國の大精神を發揚せられ、以て吾村政に協力、一途と活潑なる援助を賜はらん事を願つて止みません。小輩等村政に當るもの又元より戮力協心、強く正しく明るく清しの明朗主義の下に敢て懸命の努力を村治に致さん事を誓ひ一言迎歳の辭と致します。

乾坤一擲、茲に昭和十二年、新春ヲ迎フルニ當リ、上寶祚ノ無窮ト、御聖壽ノ萬歳ヲ壽キ奉リ併テ親愛ナル村民各位ノ健康ト幸福トヲ御祈リ申シマス。靜ニ過去一ケ年間ニ於ケル本村更生運動ノ跡ヲ省ミ本年ヨリハ眞ニ確固タル不動ノ信念ニ立脚シテ、着々ト其ノ實踐ヲ收メネバナラヌ事ヲ痛感致シマス。

宜シク更始一新ノ氣分ヲ以テ上下一致シ、偕和同榮、一路更生ノ途上ニ勇躍邁進セラレシ事ヲ切望シテ己マズ次第デ有リマス。

昭和十二年新春 波 邊 勝





(3)

組名	人員	納税額	奨励金	全上	金計
東谷村	三	三〇〇	三〇	三三〇	三三〇
大谷組	三	三〇〇	三〇	三三〇	三三〇
中谷組	三	三〇〇	三〇	三三〇	三三〇
中上組	三	三〇〇	三〇	三三〇	三三〇
中上組	三	三〇〇	三〇	三三〇	三三〇
中上組	三	三〇〇	三〇	三三〇	三三〇
中上組	三	三〇〇	三〇	三三〇	三三〇
中上組	三	三〇〇	三〇	三三〇	三三〇
中上組	三	三〇〇	三〇	三三〇	三三〇
中上組	三	三〇〇	三〇	三三〇	三三〇

(2)

### 旦暮小感

丘 卯 月

詣づるとふむ玉砂利の音さえて  
心はずがし新玉の境内

羅やかに新春の光のさしをへて  
此の朝あけの宮の静森

すずかけのすずの丸實におく雪の  
さま面白し朝晴のまど

厨べをかくるねづみのカタコトと  
年まつ夜の何時か更けにき

男體に續ける山や八重襲の  
雪は白々日をかへしつゝ

おほらかに南の空や幻、日の  
光美し霜の朝かも

一十二月二十三日夕日と名づく  
虹の如きものを見たり

宵はやも霜凝る氣配工事場の  
鐵骨塔に青き月光

初日の出ひるぐる畑のもやの中  
白梅の月に明るし百姓家

### 公示通牒欄

#### ◎海軍志願兵募集(兵事)

昭和十一年度海軍志願兵左記に依り募集  
があります。

一、志願資格者 年齢  
自大正五年十二月三日生の者  
至大正十一年十二月二日生の者

一、志願職種 水兵、機關兵、看護兵、  
主計兵、掌電信兵、航空兵、軍樂兵  
にして身体健全學術優秀の者より檢  
査の結果採用されます。

一、昭和十一年三月九日宇都宮商工會議所  
にて身体検査及學術試験を行います

一、願書は昭和十一年二月十日限り本村  
役場に提出願ひます。詳細は本村役  
場に問合せ下さい。

#### ◎秋耕奨励に關する件 (勸業農會)

地方の理化學的改善努力の按配奮力利用  
等の普及徹底を計るため、縣に於て秋耕  
を奨励して居ります。村内に於て農作を  
爲さざる閑田は此の際努めて秋耕を(三  
月より翌年一月末日迄)勵行して下さい。

◎表 彰 (兵事)

左記の者昭和十一年度徵兵検査優良壯丁  
として十二月二日知事より表彰牌及證狀  
を授與さる。

富岡 福田 玉吉

### 邑 説

昭和拾貳年を迎ふ

昭和十一年は慌だしく過ぎ去つた。  
學校の新築も掛断ばかりで修つた。  
經濟更生計畫も、蒲燒の匂ひだけで修つた。  
物足りなく思ふ。  
而し大きな仕事には準備が必要だ。  
準備は怠りなくやつてゐる。  
今年こそ實行期だ。吾も人もしつかりやう。  
昭和十二年の經濟界は……と聞き直つても、  
さてどうなるかさつぱり譯らねが、鬼に角物  
價が騰くなることだけは考へられる。  
なにしろ有史以來の歴大豫算だ。  
農産物が高くなることは嬉しいが、物價高に  
浮かされて生活を強めることは、嚴に戒しめ  
られねばならぬ。  
農産物が高くなる一足先に、肥料や必需品が  
どん／＼高騰してゐる事を見逃してはならぬ  
忘れてはならぬ。  
物價高騰の殿りは農産物であることを……  
物價下落の先頭は農産物であることを……  
そこに農村經濟の弱体性があり、農業政策の  
必要性がある。

一、國融合、生々發展

同種相寄り異種相争ふのは、動物の本能であ  
る。たゞ理性に従つて融合し、感情を抑制し  
て提携するのは人間の道である。  
二宮先生は「國融合、生々發展」云つた。  
目を閉ぢて、靜かに考へて見よ。吾等が數代  
の更に數十代の祖先を……猛獸、毒蛇、惡  
疫、幽霊と戦ひ、未開、野蠻を克服して、郷  
土に永遠の生命の根を植ゑられたのである。  
こゝに芽生えた一本は、枝を生じ、根を張つ  
て今日の部落を構成したのだ。まことに、一  
國融合は、吾等が持たねばならぬ報本反始の  
赤誠である。吾が皇國の大道である。  
かくてこそ郷土が、美しき生々發展を續け得  
るのである。貧富相續視し賢愚相續視する、

### 昭和十年度決算議了

本村昭和十年度決算認定に關する村會は客臘二十二日  
午前九時より開會、慎重調査の結果總て原案通り認定  
同日午後四時閉會せしが、歳入決算高金三万六千九百  
六十八圓四十九錢にして、歳出決算高金三万一千九百  
二十九圓三十二錢、差引金五千三百九十七圓七錢の次年  
度繰越高と言ふ豊富なる決算概況を示したり。

之が財源の歳入に於て國庫下渡金中災害に因る特別村  
として金一千八百餘圓の豫算増額、雜收入中過年度收  
入其他金一千二百三十餘圓の増入等を主なるものと  
し、結局増減差引金二千五百九十餘圓の豫算歳入増額  
を生じ、

歳出に於ては勉めて緊縮政策の下に、役場費に於て助  
役、收入役、欠員に因る人件費其他に金五百三十八  
圓餘の豫算減額。教育費に於ては東西兩校共新築の議  
を決定したるを以て、經常、臨時を通じて、修繕費増築  
費等を極度に節約制限したるを以て金一千六百四十四圓餘  
の豫算減額を來し、即増減差引金二千四百四十餘圓の歳  
出減に因るものなりとす。

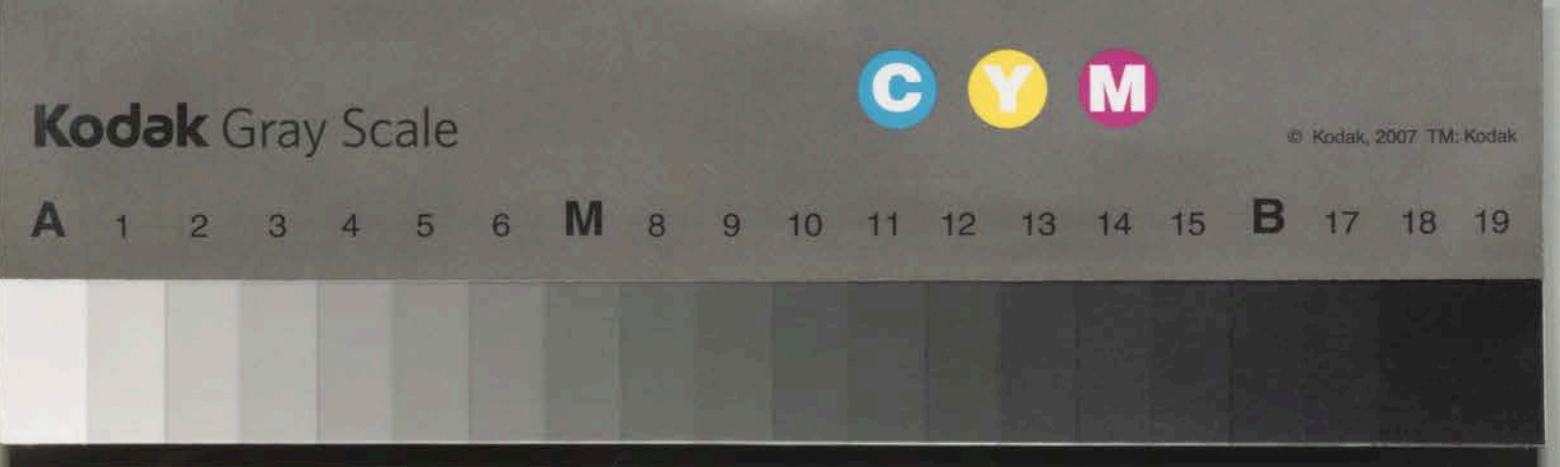
### 積小爲大

酒匂川が毎年氾濫した。  
荒れ果てた土地には、誰も手を下すものがない。  
種々の實を播いた。  
やがて幾日も、黄金の花が咲いた。  
端午の節句である。彼は柏餅を頬張りながら  
伯父が四季施の絆纏の上に乗る種々の實をもぎ落  
した。土壇に播けて干して見ると、八升餘り  
あつた。僅か十数粒の種子からこれだけ獲れ  
たのである。  
彼は酒匂川の堤に腰を下して、積小爲大(小  
を積めば大となる)といふことを考へた。  
彼は後輩の豊徳先生、二宮金次郎である。

本村に四七〇町の水田がある。  
誰もが一割づつ、増収に努めたら……  
恐らく時價に見て二万六千圓を下らぬ餘分の  
金を得ることが出来るであらう。

本村に八二九の人家がある。  
やがて来る徳正月にはそれ／＼餘酒を整へる  
であらう。この月一升づつ、お互に節約したな  
ら……八百圓近くの金が、村のごとくに留ま  
ることは三才の童兒も知つてゐる。  
この村に住む、五九二人の吾等が、父母兄  
弟が、一日一錢づつ、貯金したら……  
年末には一萬八千九百圓の金が生れる。  
書けば限りがない。

經濟更生の道は近きにある。  
しかも、それは決して茨の道ではない。  
辿れば必ず誰かが辿れる坦々たる大道であ  
る。(順)



(5)

(4)

### 村日記

九月十八日 渡邊助役公民教育講習會出席  
九月廿六日 芳賀須藤村長川堀清蔵氏外十二名更生状況視察ノタメ來村ス  
九月廿八日 水稲枯病病除ノタメ郡農會田島技手來村ス  
九月廿九日 鹿沼土木區方面主任技手本村縦貫道路測量ノタメ來村ス  
十月 五日 大出村長校舎建設低利資金ノ件ニテ大蔵省預金部へ出張ス  
十月 七日 午前本縣井口農務課長村勢一般視察ノ爲來村セリ農區長及農事實行組長會議ヲ役場ニ開ク出席者五十名縣長期出張船田技手穀物検査所上都賀監督事務所長補橋本技手臨席セリ  
十月十四日 愛知縣進進農場ヨリ職員愛知縣農村技師引卒ノ下ニ修練生五十五名來村更生状況一般ノ視察セリ  
十月十六日 東校運動會大出村長出席  
十月十八日 西校運動會渡邊助役出席ス  
十月十九日 栃木縣農會樓上ニ經濟更生主任者會議ヲ開催大出村長加藤事務渡邊技手出席ス  
十月廿二日 經濟更生計劃打合せノタメ農務課近藤技師來村セリ  
十月廿三日 消防部長會議  
十月廿六日 鹿沼町都市計劃調査ノタメ係員來村セリ  
上郡賀郡大蔵生産改善座談會ヲ郡農事務所ニ開催セラレ千渡熊倉眞三郎、見野渡邊一兩氏出席セリ  
十月廿七日 學校新築村債附議村會招集  
十一月五日 米穀自治管理事業遂行ノ件ニ關シ産業組合臨時總會ヲ役場樓上ニ開催セリ  
十一月八日 男女青年團聯合運動會東校庭ニ開催ス  
十一月十一日 横濱生麥キリンビール製造工場視察ヲタメ六十餘名出發同日歸村セリ  
十一月十三日 農區長督勵員會議ヲ役場ニ開催セリ 出席者十三名  
十一月十四日 茨城縣袋島郡五霞村産業組合書記中村新次氏外十七名本村産業組合並ニ武子三番組農事實行組視察ノタメ來村セリ  
十一月十七日 福島縣信夫郡野田村書記佐藤善善氏並ニ庭塚村書記蛭川富氏本村財務視察ノタメ來村ス  
十一月十八日 中華民國留學生(日大高等專攻科)雷雲君本縣地方課ノ紹介ニヨリ來村行政産業一般ノ視察セリ  
十一月廿一日 上都賀郡青年郷土産業共勵會ヲ鹿沼併置校ニ開催セラル  
十一月廿三日 本村在郷軍人分會勸誘奉戴式ヲ役場樓上ニ於テ舉行セリ  
十一月廿四日 夜産業組合及生産青聯共同主催ノ映畫ト講演ノ夕べヲ東西校庭ニ開催  
十一月廿五日 葉煙草納付日  
十一月廿七日 夜映畫ト講演ノ夕べヲ東西校庭ニ開催  
十一月廿七日 勸業科勸進組合設立協議會ヲ郡農事務所ニ開催セラレ渡邊技手加藤事務出席セリ納稅デニ依リ本年度納稅

### 學校欄

#### 菊澤東校 經營の立脚点

我が菊澤尋常高等小學校の施設經營を記するに第一に本村の情勢に立脚して施設經營を行ひ、以て現在未來に於て郷土の發展並に國家の要求する究極の目的を達する爲實狀を調査研究し以て本校經營の萬全を期せんとす。

- 一、經營方針
  1. 教育方針  
小學校令ノ本旨ニ從ヒ教育ニ關スル勸諭ノ旨趣ヲ奉ジ忠良ナル進歩的ノ國民、堅實ナル自治的ノ公民ヲ養成セントス
  2. 校 憲  
學校一致常ニ至誠、努力ヲ以ツテ活動ノ精神トシ其ノ任務ヲ遂行シ以テ善美ナル校風ヲ發揚セントス  
本年度本校ニ於テ特ニ努力セントスル五綱領  
一、勤勞作業ノ重視  
二、体育運動ノ向上改善  
三、情操陶冶ノ方面  
四、適切ナル職業指導ト學校選擇  
五、教育ノ郷土化
- 二、教 授
  1. 教師自身ノ實力修養ヲ第一義トス
  2. 教材ノ郷土化ト児童個性順應
  3. 教材教法ノ研究精査

### 雜報欄

#### 勸業力摺組合の誕生

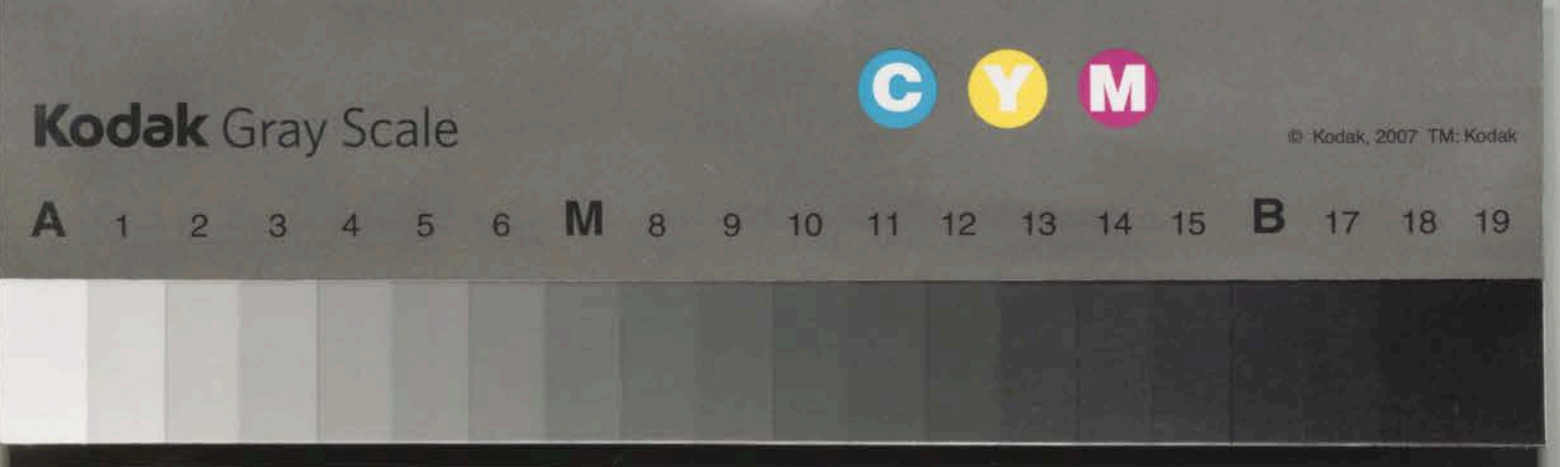
社會嗜好の推移に伴ひ摺摺の機械化時代が來た。  
十摺目によつて作られた玄米は市場より落伍した。しかも従來ロール摺は土摺に比して俵入れが多いと言はれてゐた事も數々の試験によつて根柢より覆へされた。よつて去る十一月二十七日、上都賀郡内勸業力摺業者五十數名が郡農會に集り組合設立の協議會を開いた。即日結成上都賀郡農會長矢部藤七氏を組合長に推薦し豫算を製作し歩調を揃へて郡産米の聲價向上に邁進することを申合せた。  
因に本村の加盟者は宇賀神金作(産米組合)  
(玉田) 中村昇作(見野) 田野井藤市(武子) 黒川幸太郎、金子源彌、高村寅次、大山岸三(柳窪) 大塚安榮、大柿昇(千渡) 田島平一郎、宇賀神一雄、熊倉眞三郎の諸氏である。

●軍友會設立されん  
歴戦者及兵役終了者にして停年により在郷軍人分會を退會せる者を叫合せる軍友會が軍部の慈悲によつて縣下各地に設立されつゝあるが、本村に於てもこの程福田分會長等の提唱によつて、近く設立協議會が開催さるゝことになつた。  
●役場の窓から  
十二月末日現在の本村諸車臺数は左の通りです。

自轉車 六三七臺  
馬 車 九六臺  
小 車 二三三臺  
リヤカー 四一臺

●小作獎勵金額決定  
去る十二月十四日午前十時役場に小作獎勵總會を開催本年度の獎勵金額左記の如く決定致しました。(一俵に付)  
等 級 手摺り ロール摺り  
一 等 米 一〇〇錢 一一〇錢  
二 等 米 七〇錢 八〇錢  
三 等 米 五〇錢 六〇錢  
四 等 米 三〇錢 四〇錢  
等 外 一〇錢  
尙免除米は一俵に付五〇錢を追徴する。納入期限は一月三十一日限りとす

家庭寶典(一)  
☆やけどの手當  
ワセリン、オリーブ油、樟油、なんでもよいから、油を塗るのがよい。  
油が急に間に合はねば、玉子の白味また醬油と塩をつけてもよい。水泡ができたのは消毒した針で水を出し、亞鉛華粉か硼酸軟膏をつけて滲帯しておく。



(7)

### 戸籍の動き

(自九月十五日  
至十二月十五日)

**おめでた 出生の部**

藤野 ツヤ 榑 藤野伊三郎氏四女  
大楠 サチヨ 榑 大楠義信氏孫  
上野 順子 榑 上野茂氏二女  
菊地 葉子 榑 菊地銀平氏孫  
菊地 ヒロ 榑 菊地正作氏三女  
渡邊 昭 榑 渡邊憲一氏二男  
福田 昌子 榑 福田泰三郎氏四女  
手塚 フミ 榑 手塚航藏氏長女  
金子 文子 榑 金子要一氏二女  
田島 幸子 榑 田島仁平氏二女  
安納 幸子 榑 安納延一郎氏長男  
安納 幸子 榑 安納延一郎氏長女  
小久保 智子 榑 小久保武重氏姪  
七久保 照子 榑 七久保三郎氏孫  
大塚 久男 榑 大塚源三郎氏甥  
竹澤 八郎 榑 竹澤留吉氏二男  
中田 光男 榑 中田富作氏四男  
柴田 和子 榑 柴田駒三氏長女  
神山 弘一 榑 神山勇吉氏長男  
大出 静子 榑 大出平三郎氏長女  
木村 義勝 榑 木村清氏二男  
石川 博 榑 石川直一氏二男  
川田 ヨシ 榑 川田静氏二女  
黒川 壽一 榑 黒川源一氏長男  
大島 充雄 榑 大島徳造氏孫  
高村 廣次郎 榑 高村富作氏長男  
川田 三三 榑 川田彦三郎氏三男  
三品 キミエ 榑 三品喜八氏三女  
小島 政信 榑 小島敬氏長男

金子 博吉 榑 金子要平氏三男  
渡邊 光雄 榑 渡邊啓吉氏三男  
鈴木 シズ子 榑 鈴木寅造氏孫  
福田 歌子 榑 福田茂吉氏長女  
根本 トミ 榑 根本寅太郎氏三女  
大沼 昌子 榑 大沼佐一氏三女  
渡邊 芳江 榑 渡邊喜平氏長女  
兼目 廣光 榑 兼目廣夫氏長男  
渡邊 重子 榑 渡邊勝氏姪  
富澤 茂 榑 富澤喜三郎氏孫  
大出 善江 榑 大出新作氏姪  
大楠 百合子 榑 大楠ツネ氏孫  
伊藤 佐知子 榑 伊藤淺次郎氏長女  
大出 イヨ子 榑 大出兼吉氏二女  
渡邊 茂雄 榑 渡邊幸吉氏五男  
小太刀 清 榑 小太刀金一郎氏長男  
大貫 一男 榑 大貫繁作氏四男  
大野 井保久 榑 大野井作次氏五男  
大出 ヒデ子 榑 大出孝一氏長女  
田野 井喜重 榑 田野井清重氏五男  
三品 節子 榑 三品留吉氏孫  
大野 明男 榑 大野金作氏孫  
三品 健太郎 榑 三品武司氏五男  
三品 武雄 榑 三品啓造氏甥  
小林 キノ下 榑 小林ゲン氏孫  
渡邊 季子 榑 渡邊啓三氏二女  
渡邊 セン 榑 渡邊松二氏二女  
宇賀 神宗兵 榑 宇賀神佐一郎氏孫

**おめでた 婚姻の部**

兼目 廣夫氏(見) 淺見 英一氏(田玉)  
太田 まつ子氏(野見) 上野 アイ氏(田玉)  
相澤 勇吉氏(子武) 安納 延一郎氏(渡千)  
神山 ナラ氏(子武) 大出 平三郎氏(子武)  
竹澤 ナラ氏(子武) 大出 平三郎氏(子武)  
篠崎 義作氏(子武) 福富 クメ氏(子武)  
石尾 辰雄氏(子武) 小島 イネ氏(子武)  
中野 中尾氏(子武) 林 包氏(子武)  
星野 シノ氏(子武) 林 マキ氏(子武)  
加藤 章太氏(子武) 木野 政三氏(子武)  
福田 宣春氏(子武) 木野 サト氏(子武)  
田野 井ハナ氏(野見) 野見 渡千(子武)

**おめでた 死亡の部**

藤野 ツヤ 榑 藤野伊三郎氏四女  
菊地 ミヨ 榑 菊地清次氏姪  
宇賀 神善一郎 榑 宇賀神廣吉氏長男  
永島 トシ 榑 永島留吉氏妻  
石川 長重 榑 石川啓次氏二男  
黒川 マキ 榑 黒川貴一郎氏母  
藤野 ツヤ 榑 藤野義雄氏祖母  
大出 登氏 榑 大出登氏父  
大塚 喜市 榑 大塚定吉氏長男  
高村 廣次郎 榑 高村富作氏長男  
高村 勝美 榑 高村吉一氏三男  
小林 五藏 榑 小林金吉氏父  
秋澤 フミ 榑 秋澤長平氏四女  
廣田 ナミ 榑 廣田熊吉氏妻  
大島 ミツ 榑 大島勝一郎氏長男  
藤部 和子 榑 藤部秀賢氏長女  
鈴木 清 榑 鈴木啓次郎氏八男  
鈴木 シズ子 榑 鈴木寅造氏孫

日向野 ハマ 榑 日向野清吉氏三女  
鈴木 徳次 榑 鈴木喜三郎氏曾祖父  
大貫 満 榑 大貫林多氏長男  
高井 ツネ 榑 平井平吉氏姉  
高島 マツ 榑 高島弘次氏母  
渡邊 信 榑 大楠ツネ氏長男  
渡邊 トヨ 榑 渡邊幸吉氏母  
上田 豊松 榑 大楠ツネ氏長男  
佐藤 サク 榑 佐藤源四郎氏二女  
相場 リイ 榑 相場惣一郎氏姪  
野中 儀重 榑 野中嘉九吉氏二男  
宇賀 神君雄 榑 宇賀神藤太郎氏五男  
齊藤 ヒサ

★明けまして御日度う。  
★菊澤も二年を迎へた。この子  
がすく／＼と育つのも育たぬのも  
村民諸君の肥培管理次第である。  
★第一誠心は各方面からの御注意  
を感謝する。

★原稿の締切りが無いことを尋ねら  
れましたが隔月発行です。新聞  
の讀者欄のやうに。

★さて昭和十一年は揚塵ばかりで送  
つたながら思われる。振り返つて  
今更ながら懐かし氣が返つて  
日本一の百姓と言はれた菊澤の松  
本喜作翁の所世訓は「言を後にし  
行を先にすべし」にあつたといふ  
昭和十二年度吾々の年訓はこれだ  
であらう。

★馬も千里牛も千里といふ、その丑  
年の今年は何もせず、経済更生  
に一杯の居候を込めて、  
★万物悉く新なる時、一杯の居候を  
込んで、村民各位の健康を祝し、  
に燃えやう。

★菊澤も二年を迎へた。この子  
がすく／＼と育つのも育たぬのも  
村民諸君の肥培管理次第である。  
★第一誠心は各方面からの御注意  
を感謝する。

★原稿の締切りが無いことを尋ねら  
れましたが隔月発行です。新聞  
の讀者欄のやうに。

★さて昭和十一年は揚塵ばかりで送  
つたながら思われる。振り返つて  
今更ながら懐かし氣が返つて  
日本一の百姓と言はれた菊澤の松  
本喜作翁の所世訓は「言を後にし  
行を先にすべし」にあつたといふ  
昭和十二年度吾々の年訓はこれだ  
であらう。

★馬も千里牛も千里といふ、その丑  
年の今年は何もせず、経済更生  
に一杯の居候を込めて、  
★万物悉く新なる時、一杯の居候を  
込んで、村民各位の健康を祝し、  
に燃えやう。

(6)

### 力強い生活改善の叫び

生活改善の叫びは、既に久し  
い。官廳の徳意により各種団体に依つて  
成された生活改善の申合せも亦汗牛充棟  
もたざらぬ程多い。然し乍ら尙未だ益々  
この聲の大になりつゝ、あるのは、お役  
人や、團体の幹部で作られた生活改善規  
約は一片の空文に過ぎぬものであること  
を立證してゐるのに外ならぬ。

本村でも昭和九年縣の經濟更生村に指  
定されたのを機として、委員會に於て生  
活改善事項を決定し、實行を申合せたが  
筆者不肖にして未だこれが組織的には行  
れて居る所を聞かぬ(勿論個人的には感  
心な程良く實行してゐるものも二、三あ  
るにはあるが)だからと言つて必要が  
ないのではない、それどころか部落に入  
ると随分生活改善を要望してゐる聲を聞  
く。がさて實行されぬところを見ると、  
其の間何か欠けるところがあるのではな  
からうか。

畢竟生活改善は農村の部落組織の中  
に織りこまればならぬ。

歴史を共にし、日常の經濟状態を等し  
ろし、觀念上にも共通性の多い部落内の  
各戸が、眞に自己の經濟生活を反省する  
ならば、そして、そこに完全な融合組織  
があるならば生活改善の實行されるのは  
當然のことであらう。

吾人が農事實行組合の改組を唱導して  
ゐるのもこの故である。

武子三番組農事實行組合は、曩に當局

の薦めにより、いち早く改組を實行し、  
しかも部落内の未加入者をも抱合し、組  
員二十三名を以て陣容を整へ自ら任ず  
るに村内の模範組合をもつて、各種事  
業に着手したが、殊に去る十二月二十八  
日夜は折からの凍てつく寒さにも拘らず  
全員一人の洩れなく出席して、久しく懸  
案であつた生活改善の諸問題を提案し、  
討議、練議、深更に致つて漸く一つの成  
果を得た。幸ひ筆者もこの會議に列席し  
組合員諸君の生活態度の、むしろ悲壯に  
近きまでの眞剣さに感激し、思はず涙の  
臉を潤はすを禁じ得なかつた。そして恐  
らくこれは確實に實行されるであらうと  
の感を深くした。

今この全文を掲載して御答者に供する  
としよう。

◎生活改善事項

一、時間勵行

- 1 時間ハ絕對ニ勵行スル事
- 2 指定ノ時間ニ二十分以上遅刻シタル  
時ハ金五圓ノ過怠金ヲ徴收ス
- 3 一ケ年ヲ通ジ集合回数ノ五割以上ノ  
遅刻ヲナシタル者ニハ別ニ相當ナル  
懲罰ヲナス
- 4 無斷缺席ヲナシタルモノハ金二十  
圓ノ過怠金ヲ徴收シ一ケ年ヲ通ジ集  
合回数ノ三割以上ノ無斷缺席セル者  
ニハ別ニ相當ナル懲罰ヲナス
- 5 右ハ日待、其ノ他時間ヲ指示セル各  
種集合ニ適用ス

二、記帳

- 1 家計簿ヲ記入スル事
- 2 當組合長又ハ農會、役場ノ該係員ノ  
点檢アル場合ハ之ヲ拒ム事ヲ得ズ
- 3 出産ニ關スル件  
1 出産ニ際シテハ出産祝シテ白米一  
升ヲ贈ル
- 2 七夜祝ニハ子供ヲ招待シ金貳圓程度  
ノ茶菓ヲ贈ル
- 3 招待サレタル者ハ一戸金拾圓ノ祝儀  
ヲナスコト
- 4 節季祝ハ全廢スル事
- 5 結婚ニ關スル件  
結婚ハ質素ヲ旨トシ結婚總費用ガ年收  
入ノ半額ヲ超ザルコト
- 6 入退婚ニ關スル件  
1 入婚者ニハ組合員二人金拾圓ヲ贈  
出シ祝儀一本ヲ贈リ殘金ヲ入當當日  
社前ニ於テ儀別トシテ贈呈ス
- 2 入婚者ハ當組合ヨリ贈ラレタル祝儀  
以外ハ掲揚セザルコト
- 3 入婚者ハ入婚決定セバ入婚通知書ヲ  
親戚知已ニ送リ通知書ノ餘白ニ組合  
ノ名ヲ以テ祝儀返退ノ旨ヲ添書ス
- 4 入婚者ハ儀別其ノ他ニ對スル祝返シ  
家祝宴等ヲナサザル事
- 5 入婚者ニ對シテ別會立宴等ハナサザ  
ル事
- 6 除婚者ハ除婚挨拶廻禮ニ際シ質素ナ  
ル除婚記念品ノ贈呈ヲナス事ヲ得
- 7 病氣見舞ハナサザル事
- 8 病氣見舞ニハ自家産品又ハ金錢ヲ以  
テナス事

七、葬儀ニ關スル件

- 1 飛脚引受ケハ抽籤ニ依リ決定シ食事  
一切ヲ自辨トス
- 2 施主ハ草鞋錢トシテ一組五拾圓ヲ差  
出す事
- 3 但シ遠距離又ハ特別地ハ草鞋錢ノ増  
額ヲナス事ヲ得
- 4 床取りハ願番ニ擔當シ墓地ニ於ケル  
食事ヲ廢シ終了後施主宅ニ於テ入浴  
清身中食ヲナス事
- 5 帳場ハ當該組合ニテ行ヒ香奠ニ對ス  
ル返シ物ハ帳場ニ於テ贈呈ス
- 6 會葬、組合員ハ施主ノ指示セル時間  
ニ集合シ出棺準備ノ手傳ヲナス
- 7 葬儀終了後清身酒、夕食ヲ囃シテ解  
散ス
- 8 夕食ハ一汁一菜一肴三品トス
- 9 一般會葬者ニハ本膳ヲ廢シ中食ヲ供  
ス
- 10 香料及香奠返シ 組合員ノ香料ハ金  
拾圓トシ香奠返シハナサザル事
- 11 一般會葬者ノ香奠返シハ一品トス
- 12 葬儀翌日ハ組員一戸一人跡片付ノ手  
傳ヲナス

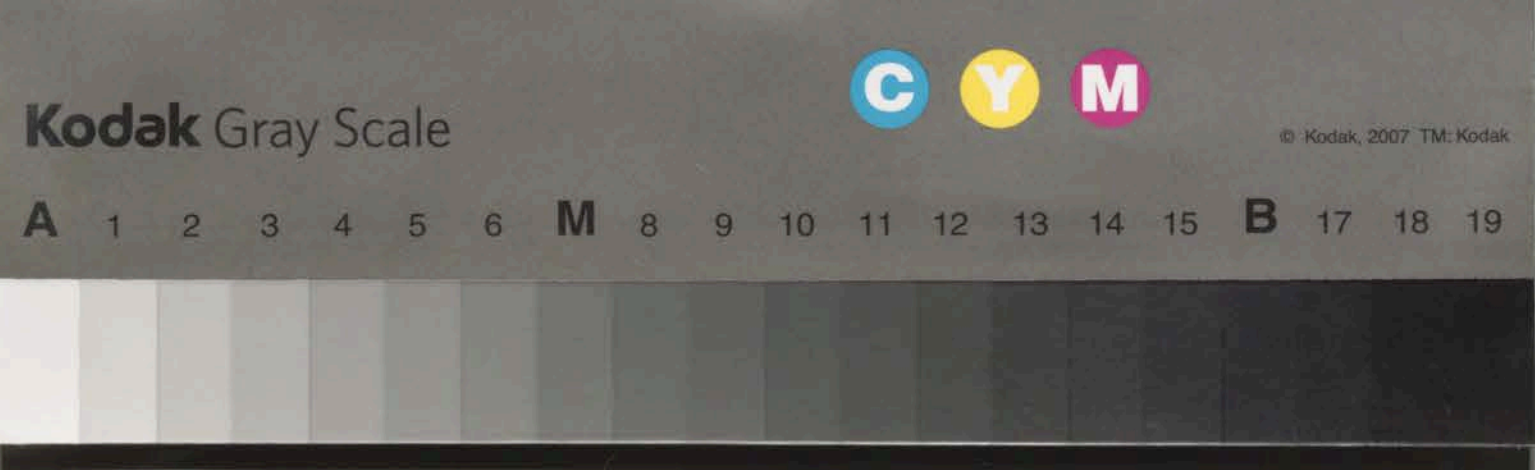
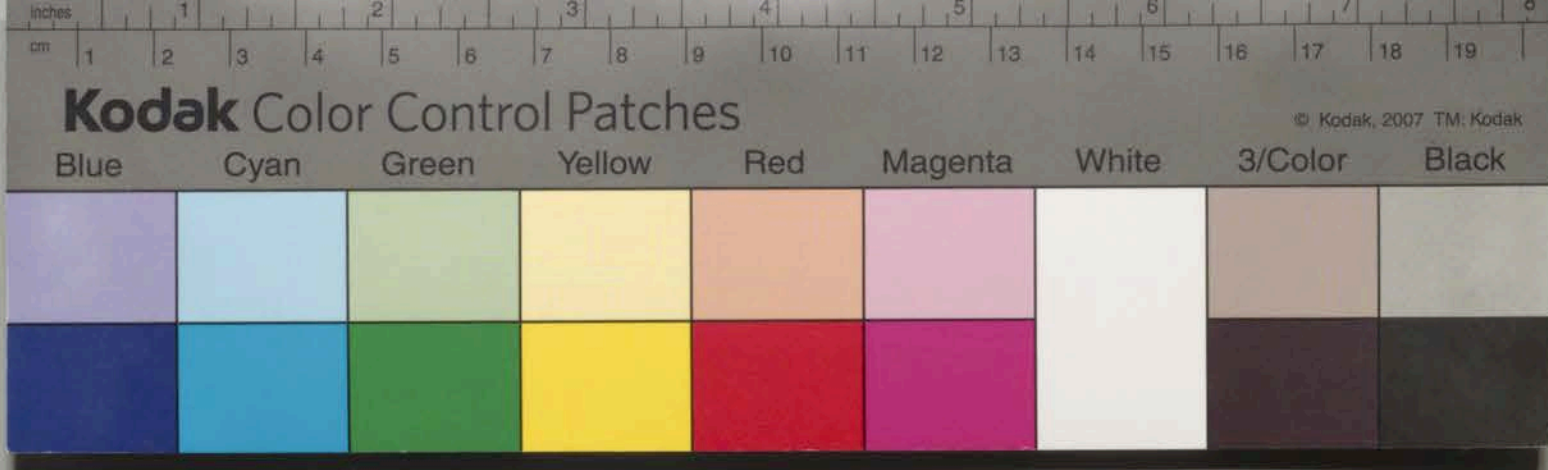
右規定ヲ嚴守スル事

違反セル者ハ組合規約罰則ヲ準用ス

昭和十二年一月一日

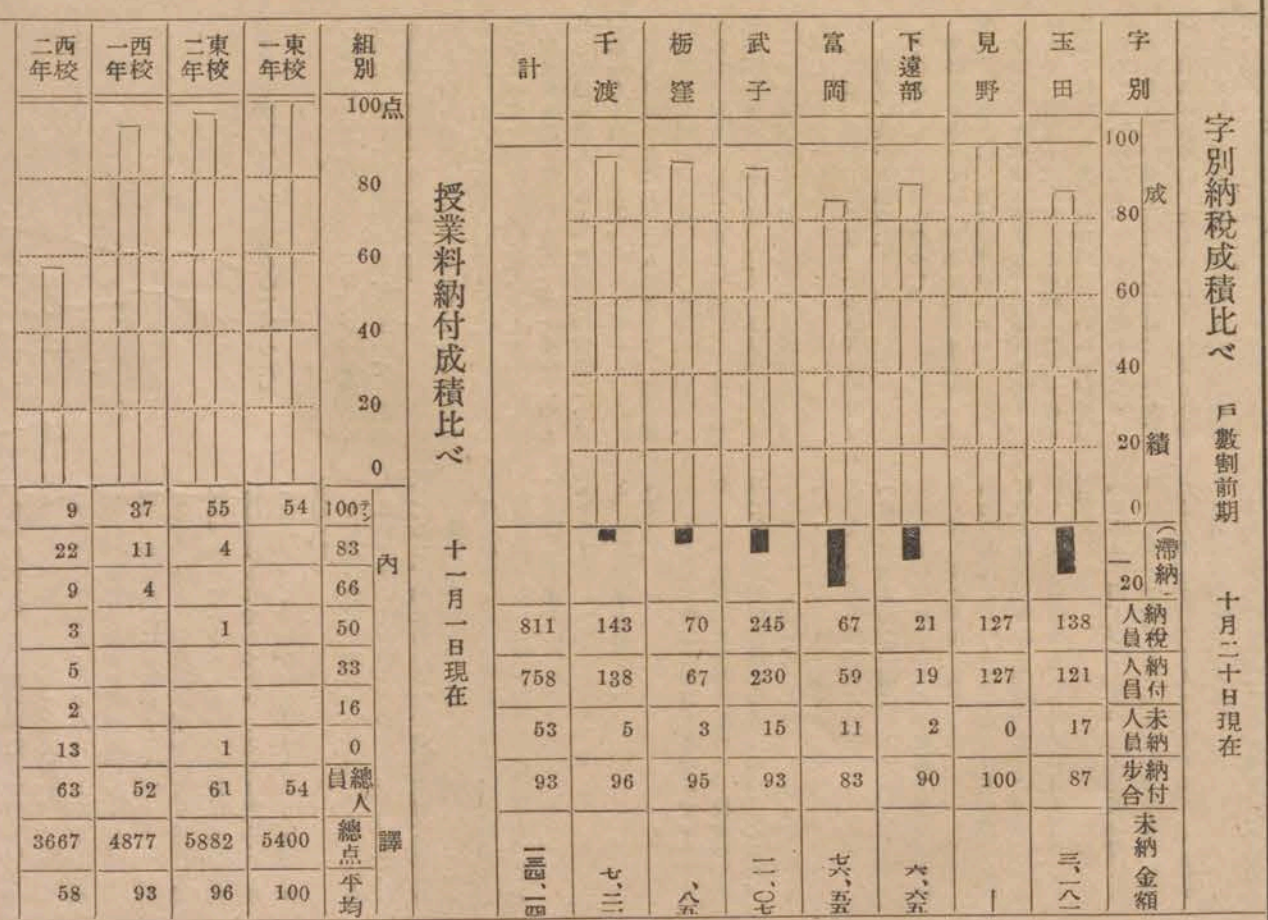
菊澤村大字武子  
三番組農事實行組合

——二月三〇日夜記——順——



(9)

障學	全	綿	地	軍	布	子	大	全	女	全	男	コ	作	中	浦	手	其	天
子用	動	短	長	履	シヤ	供用	人用	冬	子	冬	子	ール	業	被	團	オ	他	竺
紙品	靴	靴	靴	物	ツ	冬	冬	服	夏	服	夏	天	上	服	綿	反	木	
他				類		履	履	類	類	類	類	類	類	類	類	類	類	



新春直言

春光融々タリ、山野草木影霞ヲ見、新歳ノ上ニ光明アリ。  
 明朗ノ大氣ヲ仰ギ、明朗ナル村宰ヲ戴ク、積年ノ穡ヲ拂ツテイザ借ニ邁進セン。  
 庶政一新ノ口頭禪ヤ、經濟更生、農村振興等ノ御題目ハ聞キ飽キタ、只吾等ノ希望スル所ハ果斷實行之有ルノミ。  
 眞ノ農村更生ハ農家各戸ノ經濟改善ニアリ、天降リノ更生計畫ヲ聽吞ニシテハ下痢ノ因、宜シク各戸ノ實情ニ即シテ先ツ更生簿ノ記載ニ努メン  
 果報ハ決シテ瘴テ待ツ可キニアラズ徒ラニ舊慣ヲ墨守ス可キアラズ、吉祥ハ只勇躍實行スル者ノ頭上ニアリ希望ナキ所ニ輝ナシ、凡テチ求メヨ然ラバ必ズ與ヘラルベシ。  
 (原南生)

(8)



組合 經濟用品購入 調査に就て御願ひ

今度吾が産業組合で皆様の御家庭に於ける過去一ケ年間の經濟用品購入高を調査させて頂くことになりました。經濟用品とは、申すまでもなく吾々が生活して行く上に日常欠くべからざる家庭用品と日用品とか食料品とか衣服履物類の總稱であります。今農家の總支出を検討して見ますと、實にその六割が經濟用品を以て占められて居るのであります。經濟用品購入の適否は、直ちに農家經濟上重大な影響を及ぼしてくるのであります。したが、これもこれ程農家經濟に重大な關係を持つ經濟用品が、現在までことごとく都市の大資本による生産物により供給されて居り、随つてその價格の決定權が都市の大資本に握られてゐるといふことは農村にまつて誠に由々しい問題であります。吾が産業組合に於て經濟用品を取扱ふやうになつたのは極めて最近のことです。随つてその數量その金額に於ても一般組合員各位の御家庭で消費します經濟用品總額に比して甚だ小額であります。然し乍ら如上の様な理由によりまして、自分の使用品は自分の手で……といふことをモットーとして所謂自己生産の領域を擴大することに懸命の努力を致して居るやうな次第であります。自己生産の有利でありますことは、今更申すまでもありませんが、一例をひいて見ますと、昭和九年頃一ポンド一圓五六十錢で賣買されて居つた穀物糖類精粉ロールピクリンが、昭和十年度に組合の依託生産が初められてから一圓三十錢以下となり、更に昭和十一年度即ち本年自己生産の開始と共に七十錢といふ驚くべき大巾の値下げが行はれたのであります。その他久美愛家庭菜といひ、足袋類といひ、めざましい實績を納めて居るのであります。今農家の經濟用品を悉く組合の自己生産に依るとしますならば、恐らく從來の支出は半減されるのであります。吾々は經濟更生に當つて生活の改善を叫んで居ります。生活の改善必ず支出の減少であるとは云ひ得ないのであります。減少も今日農村に叫ばれて居りますが、まず生活改善は生活費の減少を最大の目標として居りますのは事實であります。斯様に解釋して参りますと、農家各自が組合の經濟用品を利用するといふことは、組合に於ける自己生産の領域を廣げると共に(これに依つて必需品の價格を低廉ならしめ)廣義の生活改善であると云ひ得るのであります。大きく申しますならば、吾が國農村更生のため、是非とも經濟用品の自給自足を言ひかへれば自己生産が必要なのであります。自己生産の計画を樹てますに於ても、農家各戸は如何いふ經濟用品

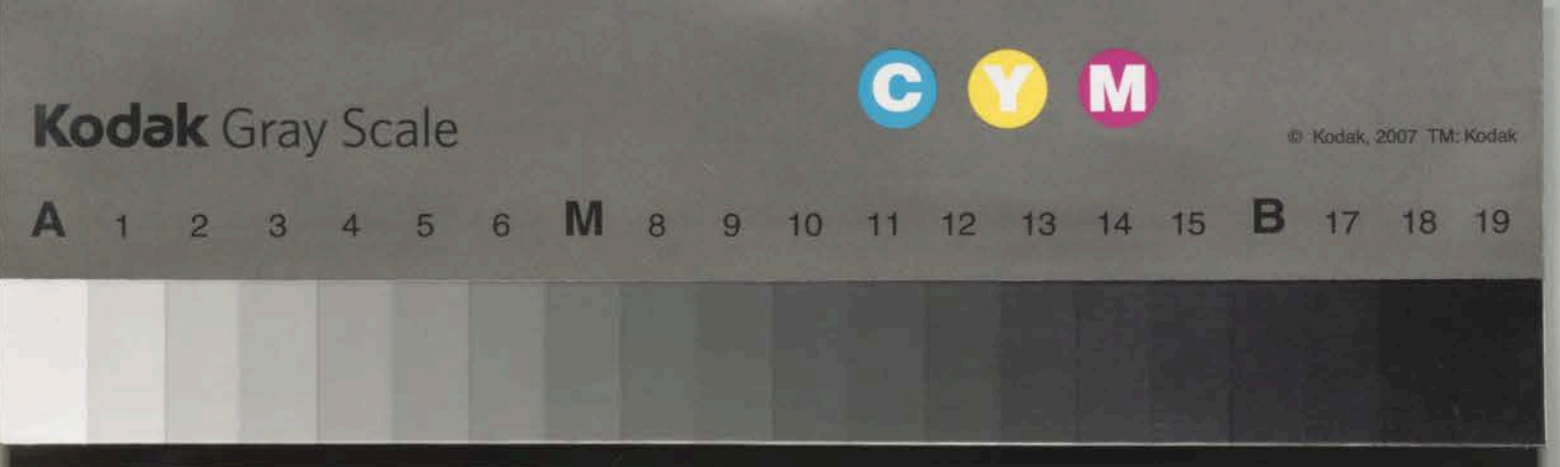
經濟用品購入調査

をどういふ割合を以て、どれほど消費してゐるのかといふことを、詳細知らなければならぬのであります。即ち村内の皆様に対し左記の如き様式に依りその購入消費高を教へて載、所以であります。(組合同人)

部 落  
 組合員名

昆	裁	身	塩	米	塩	米	丸	大	齒	齒	洗	組	藥	行	品
節	節	干	鍊	鯉	鯉	粉	麥	麥	豆	刷	磨	石	石	磨	種
布	節	干	鍊	鯉	鯉	粉	麥	麥	豆	刷	磨	石	石	磨	類

尺反反反反反反反 升升升升升升升升升 把錢斤斤斤斤個錢



田園小説 明け行く村 見村生

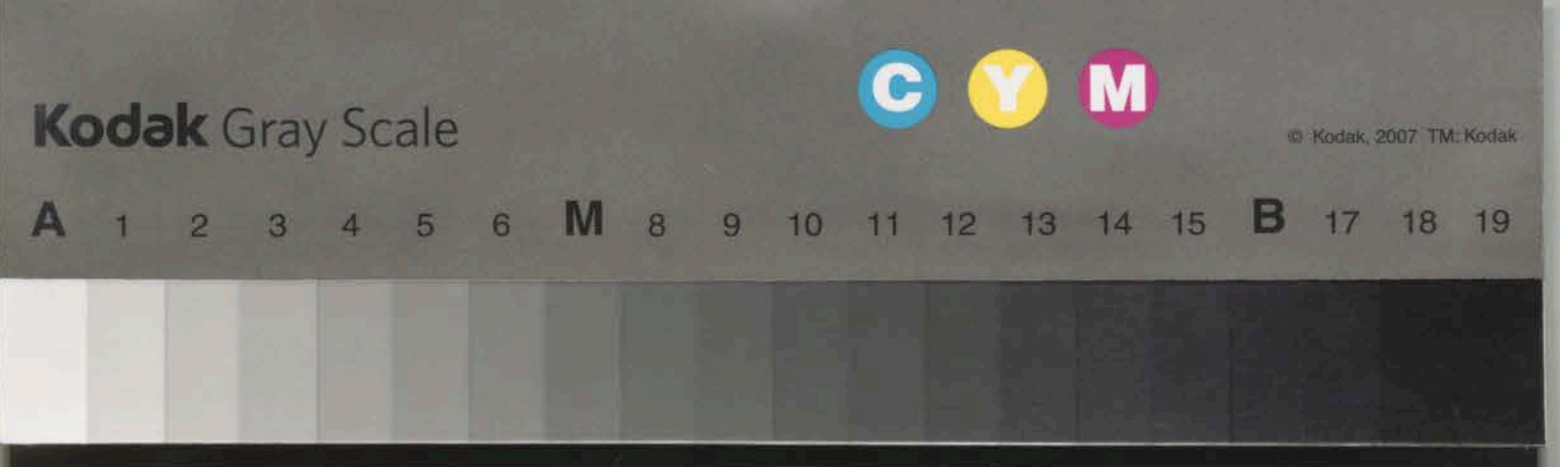
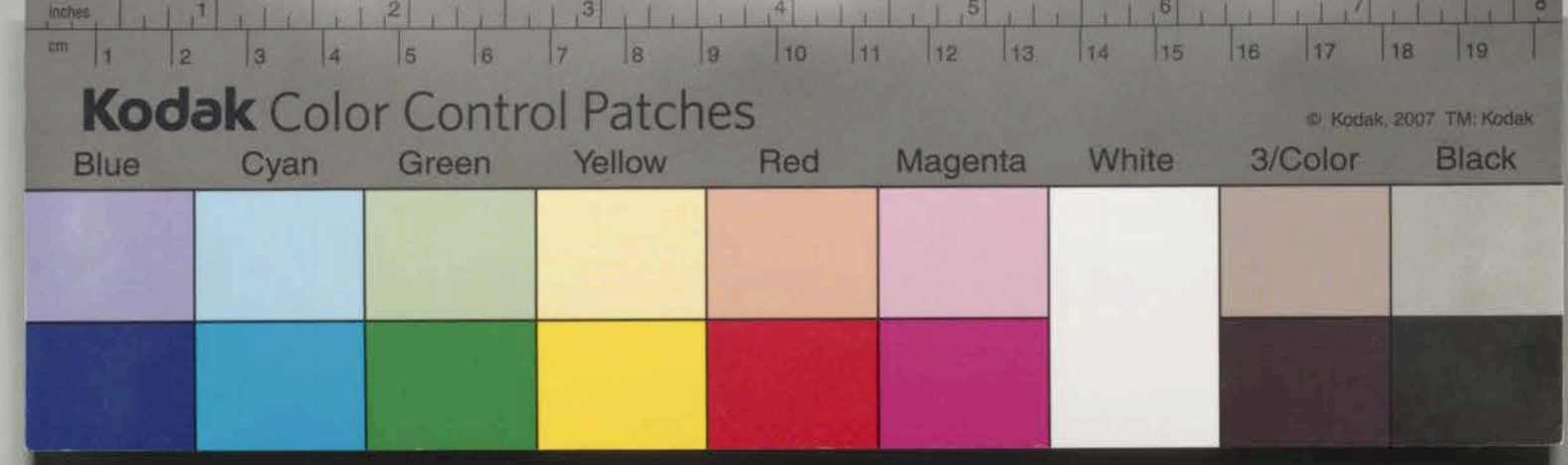
二、心の集ひ
忙しい季節は疾く終つた。誰も言ひ合はしたやうにハツとした。
この頃は、運動會や盆踊りの噂をするものも少なくなつた。そして百舌鳥の鳴聲が、日増しに神経質になつて来た。

になつたのであります。そこで村内の重だつた方に更生委員になつて戴き……こゝに御出の野原さん、伊平さん、その御一人ですが……先般來重の重組協賛を遂げまして、本村更生上差當つて必要な、拾遺類の計画を樹てたので御座います。そしてこれに農林省の方へ提出しまして、これに對して助成なり低利資金の融通なりを戴き立前になつて居ります。この更生計画の内容その他は、己に印刷物として皆さんへ御配りしてありますから今更申上げるまでもないこと存じます。

れども、其處が肝腎の所で、そうした感念が農村今日の不況を來した最大原因なのであります。吾々は部落といふもの出来立ち、つまり歴史を良く考へて見たいのです。今お互が住んである部落は、決して最初から二十戸三十戸と家がたつたわけではない。初めは誰か一戸か二戸が細々と生活してゐたに相違ない。これが段々木の枝のやうに分れ分れて、今日の大きな部落や村を作つたのです。

- 職業紹介欄 (黒崎)
(紹介期限昭和十二年三月末日)
男女工募集
一、共立モスリヤ株式會社中山工場
1 勤務地 千葉縣市川町中山
2 職業 糸紡織業
3 年齢 13才~18才
4 給與 日給37錢~70錢 (技術ニヨリ給料決定)





號二第 澤 菊 行發日一月一年二十和昭 (12)

生産組合名		數量		價值		段	
作業品	スレン	一着	二、八〇	全	〇、二二	全	〇、二二
大人服	コールト	一着	二、四〇	全	〇、二〇	全	〇、二〇
乗馬ズボン	コールト	一着	一、七〇	全	〇、一五	全	〇、一五
平ズボン	コールト	一着	一、五〇	全	〇、一三	全	〇、一三
學生服	コールト	一着	一、五〇	全	〇、一三	全	〇、一三
小倉	コールト	一着	一、五〇	全	〇、一三	全	〇、一三
地タビ	コールト	一着	一、五〇	全	〇、一三	全	〇、一三
長	コールト	一着	一、五〇	全	〇、一三	全	〇、一三
九、七	コールト	一着	一、五〇	全	〇、一三	全	〇、一三
九、七	コールト	一着	一、五〇	全	〇、一三	全	〇、一三
七、七	コールト	一着	一、五〇	全	〇、一三	全	〇、一三
七、七	コールト	一着	一、五〇	全	〇、一三	全	〇、一三
七、七	コールト	一着	一、五〇	全	〇、一三	全	〇、一三
七、七	コールト	一着	一、五〇	全	〇、一三	全	〇、一三
七、七	コールト	一着	一、五〇	全	〇、一三	全	〇、一三
十、十	コールト	一着	一、五〇	全	〇、一三	全	〇、一三
十、十	コールト	一着	一、五〇	全	〇、一三	全	〇、一三
十、十	コールト	一着	一、五〇	全	〇、一三	全	〇、一三
十、十	コールト	一着	一、五〇	全	〇、一三	全	〇、一三
十、十	コールト	一着	一、五〇	全	〇、一三	全	〇、一三
十、十	コールト	一着	一、五〇	全	〇、一三	全	〇、一三
十、十	コールト	一着	一、五〇	全	〇、一三	全	〇、一三
十、十	コールト	一着	一、五〇	全	〇、一三	全	〇、一三
十、十	コールト	一着	一、五〇	全	〇、一三	全	〇、一三
十、十	コールト	一着	一、五〇	全	〇、一三	全	〇、一三

生産組合名		數量		價值		段	
白キヤラク	女別珍	一足	〇、二五	全	〇、二二	全	〇、二二
雲才	雲才	一足	〇、二五	全	〇、二二	全	〇、二二
雲才	雲才	一足	〇、二五	全	〇、二二	全	〇、二二
雲才	雲才	一足	〇、二五	全	〇、二二	全	〇、二二
雲才	雲才	一足	〇、二五	全	〇、二二	全	〇、二二
雲才	雲才	一足	〇、二五	全	〇、二二	全	〇、二二
雲才	雲才	一足	〇、二五	全	〇、二二	全	〇、二二
雲才	雲才	一足	〇、二五	全	〇、二二	全	〇、二二
雲才	雲才	一足	〇、二五	全	〇、二二	全	〇、二二
雲才	雲才	一足	〇、二五	全	〇、二二	全	〇、二二

生産組合名		數量		價值		段	
純毛	メリヤス類	一足	二、六五	全	二、三〇	全	二、三〇
純毛	メリヤス類	一足	二、六五	全	二、三〇	全	二、三〇
純毛	メリヤス類	一足	二、六五	全	二、三〇	全	二、三〇
純毛	メリヤス類	一足	二、六五	全	二、三〇	全	二、三〇
純毛	メリヤス類	一足	二、六五	全	二、三〇	全	二、三〇
純毛	メリヤス類	一足	二、六五	全	二、三〇	全	二、三〇
純毛	メリヤス類	一足	二、六五	全	二、三〇	全	二、三〇
純毛	メリヤス類	一足	二、六五	全	二、三〇	全	二、三〇
純毛	メリヤス類	一足	二、六五	全	二、三〇	全	二、三〇
純毛	メリヤス類	一足	二、六五	全	二、三〇	全	二、三〇

生産組合名		數量		價值		段	
純毛	メリヤス類	一足	二、六五	全	二、三〇	全	二、三〇
純毛	メリヤス類	一足	二、六五	全	二、三〇	全	二、三〇
純毛	メリヤス類	一足	二、六五	全	二、三〇	全	二、三〇
純毛	メリヤス類	一足	二、六五	全	二、三〇	全	二、三〇
純毛	メリヤス類	一足	二、六五	全	二、三〇	全	二、三〇
純毛	メリヤス類	一足	二、六五	全	二、三〇	全	二、三〇
純毛	メリヤス類	一足	二、六五	全	二、三〇	全	二、三〇
純毛	メリヤス類	一足	二、六五	全	二、三〇	全	二、三〇
純毛	メリヤス類	一足	二、六五	全	二、三〇	全	二、三〇
純毛	メリヤス類	一足	二、六五	全	二、三〇	全	二、三〇

**家庭寶典 (二)**  
 ☆ひと、あかぎれの療法  
 風呂の中に大根の干葉とか密柑の皮など入れて入るとよい風呂があんだらならそれ等の煮出汁によく患部をつけ、そのあと上等の胡麻油をつけて置く。あかぎれは清潔に洗って硼酸軟膏をつけて置くとなほる硼酸軟膏は日本薬局法のものといへば幾層で作つてくれる。

